



FolderList 説明書

改訂 1.3 2011 年 10 月 26 日
aki

目次

1. はじめに	4
1.1. 本書の内容	4
1.2. FolderList とは	4
2. 利用環境	4
3. ソフトの形態と権利	4
4. インストール、アンインストール	4
4.1. インストール	4
4.2. アンインストール	5
5. 使い方	5
6. 免責	7
7. MS Excel のファイル形式	7
8. 動作の設定と実行	7
8.1. 設定チェック・ボックス	8
8.2. コマンド・ボタン	9
8.3. 重複ファイル調査の設定	12
8.4. 設定可能ボタンの設定	13
8.4.1. ボタン設定の項目	14
8.4.2. ボタン設定例	16
8.5. その他オプションの設定	17
8.6. リスト状況表示ダイアログ	18
8.6.1. リスト状況表示ダイアログの表示	18
8.6.2. [モニタ切替(M)]、[中止(C)] ボタン	19
9. リスト結果表示	19
9.1. リスト対象とサマリ	20
9.2. ドライブ情報	21
9.3. ファイル、フォルダのリスト	22
10. その他	23
10.1. 不具合および制限	23
10.1.1. PDF ファイル「しおり」の文字化け	23
10.1.2. 使用上の制限	23
10.2. ハッシュ算出用作業ファイル	23
10.3. 行の並べ替え、比較	24
10.4. 少しでも処理パフォーマンスを上げたい方のために	24
10.5. 問合せ先	24
11. 参考資料： VBA マクロを有効にする	25
12. 索引	27
13. リリース・ノート	28

図 1：最初の起動で表示されるダイアログ表示	5
図 2：シート「FolderList」の表示	5
図 3：フォルダ選択ダイアログの表示例	6
図 4：実行結果の表示例	6
図 5：重複ファイルをサイズの大きい順に表示した例	7
図 6：「フォルダ名と一緒に記入する」設定による違い	8
図 7：ファイル比較結果表示例	11
図 8：簡易説明の表示	11
図 9：拡張ボタン操作説明の表示	12
図 10：重複ファイルの調査設定ダイアログ表示例	12
図 11：設定可能ボタン 0 設定画面表示	14
図 12：「確認する」で表示されるダイアログの例	15
図 13：「表示する」で表示されるダイアログの例	15
図 14：ボタン設定例 1	16
図 15：ボタン設定例 2	17
図 16：オプション設定ダイアログ表示	17
図 17：MS Excel 画面再描画停止時の表示例	18
図 18：リスト状況表示ダイアログの表示例	19
図 19：結果の表示例	19
図 20：ドライブ情報の表示切替	21
図 21：ドライブ情報の表示例	21
図 22：Excel のオプション、セキュリティ センター	25
図 23：セキュリティ センター、信頼できる場所	26
表 1：コマンドに渡す引数に使用できる変数	14
表 2：サマリ内訳文字とその意味	20
表 3：重複ファイルの可能性調査結果サマリ	20
表 4：重複ファイルの可能性調査結果サマリ	20
表 5：ファイル、フォルダのリスト項目	22
表 6：リリース・ノート	28
表 7：改訂履歴： FolderList 説明書	29

MS, Excel 2007, Excel 2003, Microsoft, Windows, Windows Vista, Windows XP, .NET Framework は、米国 Microsoft Corporation 及びまたはその関連会社の商標または登録商標です。

1. はじめに

1.1. 本書の内容

本書は、フォルダ内のファイルをリストするツール **FolderList** の説明書です。使用方法などについて説明します。説明は、前半の「ひと通りの簡単な説明」と、後半「8. 動作の設定と実行」からの「少し詳しい説明」に分かれています。

なお、本書 PDF ファイルには「しおり（見出しマップ、ブックマーク）」が付いている他、文中にも参照先へのリンクが設定されています。

1.2. FolderList とは

FolderList は、ファイルやフォルダのリストを作成するツールです。

作成されたリストを基に、MS Excel の強力な機能を使ってファイルの管理など色々な用途に利用できます。MS Excel が得意なあなたにお勧めするツールです。

FolderList には、次のような特徴があります。

- 重複して存在するファイルを見つける機能があります。(ディスク・スペースを有効に利用できます。) 対象フォルダを複数指定できるので、異なるディスクなど離れたフォルダにあるファイルであっても検出できます。
- フォルダを含めたフルパスでリストしたり、フォルダとファイル名を分けてリストしたり、相対パスでリストするなど、目的に合わせて指定できます。
- MS Excel でリストする割には、動作が高速です。
- ディスク・ドライブの情報も取得し表示します。
- 任意のコマンドを登録して、リストしたフォルダやファイルに対して実行することができます。
- ファイルのハッシュ値を求めることができます。ハッシュは、MD5, SHA-1, SHA-2(SHA-256, SHA-384, SHA-512), RIPEMD-160 から指定できます。
- ファイルの内容を直接比較し、同一内容かどうかを調べることができます。
- 大量のリストを出力させる場合、今、どの辺りをリスト中であるのかを知ることができます。

2. 利用環境

Windows Vista、XP で動作する MS Excel 2007¹。

XP で重複調査やファイル比較をする場合は、.NET Framework 2.0 以降が必要です。

説明書を参照するには PDF ファイルのビューアが必要です。

3. ソフトの形態と権利

FolderList は誰でも利用できるフリーソフトですが、著作権を含めその他の権利は作者に帰属します。

4. インストール、アンインストール

4.1. インストール

ダウンロードしたファイルをインストールするフォルダに解凍してください。次のファイルが解凍されているはずです。

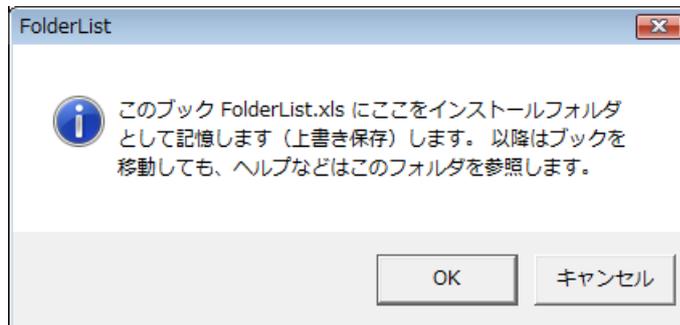
- (1) FolderList.xls ツール本体
- (2) FolderList.pdf 説明書（このファイル）
- (3) FileHash.exe ハッシュ算出と比較モジュール（重複を調べる時に使用）

¹ MS Excel 2003 でも動作すると思いますが未確認です。

(4) README.txt..... 概要説明

解凍した場所で最初に FolderList.xls を開くと、次のようなダイアログが表示されます。[OK] をクリックしてインストールフォルダを記憶させます²。記憶させた以降は、このファイルをコピーして使用するか、希望の場所に移動させて使用しても構いません。

図 1：最初の起動で表示されるダイアログ表示



もし、解凍したファイルがすべて存在するのに、ダイアログが表示されない場合は、MS Excel のセキュリティ設定が必要かもしれません。必要により「11. 参考資料：VBA マクロを有効にする」を参照ください。

4.2. アンインストール

不要になったら削除します。

5. 使い方

使い方を簡単に説明します。

(1) ファイル FolderList.xls を開きシート「FolderList」を選択します。

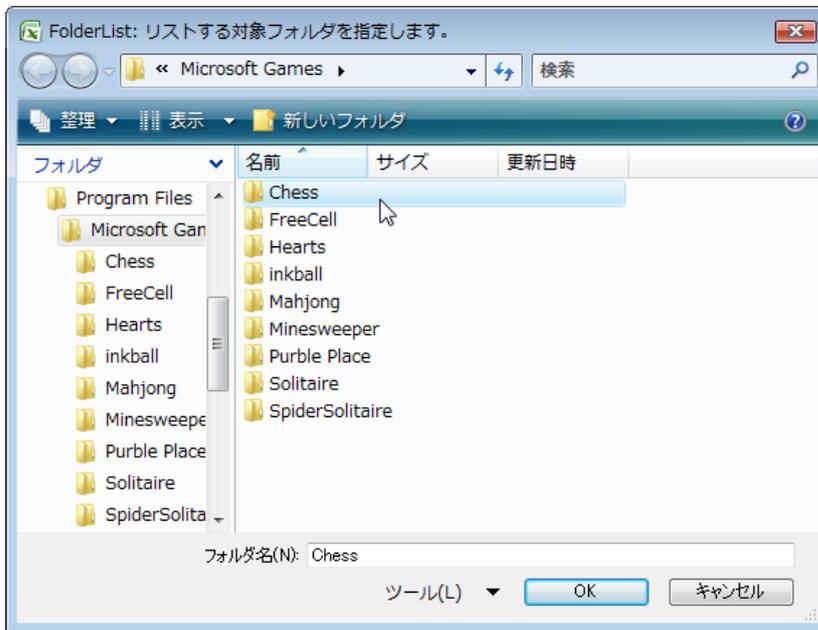
図 2：シート「FolderList」の表示

	A	B	C	E	F	H	I	J
1		<input type="checkbox"/> フォルダのサイズも記入する	<input type="checkbox"/> フォルダ名と一緒に記入する	<input type="checkbox"/> リンク先も記入する		<input type="checkbox"/> 重複を記入する		
2								
3		<input checked="" type="checkbox"/> サブフォルダも記入する	<input type="checkbox"/> フォルダ名を相対表記にする	<input type="checkbox"/> 経過をモニタする				
4		消去	開始	開く	フォルダ	プロパティ	ハッシュ記入	行順を戻す
5						0	1	説明
8								
9								
11								
12		ドライブ情報(左側の [+] をクリック)						
23		ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類	属性	深さ
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								

² インストールフォルダを変更した場合には、必要時に（たとえば説明書の表示が要求された時に）ファイルがどこにあるのかがたずねられるので、指定してください。もちろん、インストールをやり直しても結構です。

- (2) 重複したファイルを調べる場合は画面右上の「重複を記入する」（「重複の可能性を調べる」）チェック・ボックスにチェックします。
- (3) 面左上の「開始」ボタンをクリックすると、フォルダ選択ダイアログを表示します。目的のフォルダを選択して「OK」をクリックするとリストを開始します。（一度に複数のフォルダを指定する方法については「8.2.コマンド・ボタン」の「(2)「開始」ボタン」をご覧ください。）

図 3：フォルダ選択ダイアログの表示例



- (4) フォルダのリストが表示されます。

図 4：実行結果の表示例

ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類	属性	深さ
C:\Program Files\Microsoft Games						
フォルダ数: 18 (E:0, S:0, H:0)、ファイル数: 44 (S:7, H:7)、サイズ: 93,301,175B、91,114KB、89MB						
リスト日時: 2009/11/18 15:19、処理時間: 0:00:01						
ドライブ情報(左側の[+]をクリック)						
Chess		2006/11/02 21:37	2009/10/05 16:07	ファイル フォルダ	RF	0
FreeCell		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0
Hearts		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0
inkball		2006/11/02 21:37	2008/04/26 16:34	ファイル フォルダ	F	0
Mahjong		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0
Minesweeper		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	F	0
Purple Place		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0
Solitaire		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0
SpiderSolitaire		2006/11/02 21:37	2009/06/02 15:43	ファイル フォルダ	RF	0

- (5) 重複ファイルの調査を指定した場合は、右端の列 M が表示され、重複しているファイルには、重複種類番号（同じ番号のファイルが内容が同じ）が記入されます。 「行順を戻す」を Shift + クリックすると、重複しているファイルが、サイズの大きい順に表示されます。（または、オートフィルタやソートの機能を使用して列 M で並べ替えても結構です）。

次の例は、C:\Windows\Cursors を対象に表示させたものです。

図 5：重複ファイルをサイズの大きい順に表示した例

ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類	属性	深さ	重複
aero_busy_l ani	77,440	2006/11/02 21:34	2006/11/02 21:34	アニメーションポイン	A	0	1
aero_busy_xl ani	77,440	2006/11/02 21:34	2006/11/02 21:34	アニメーションポイン	A	0	1
size2_l cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	2
size2_rl cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	2
size3_l cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	3
size3_rl cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	3
size4_l cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	4
size4_rl cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポインタ	A	0	4

(参考)

- ファイルが置かれているフォルダを開くには、対象の行のセルを選択して [フォルダ] をクリックします。
- [行順を戻す] をクリックするとリスト直後の行順に戻ります。

6. 免責

作者は FolderList により使用者が損害を被ることは、全く意図していないことを宣言します。しかしながら、作者の意図に反して結果的に損害を被る恐れがあることを否定できません。FolderList による損害や、FolderList を使用できないことによる損害に対し、作者はその責を負いません。

ここまで、基本的な動作や使い方についてひと通り説明しました。
以降はオプションな機能を含め、詳細の説明です。必要により参照ください。

7. MS Excel のファイル形式

FolderList は FolderList.xls として配布していますが、これは、処理パフォーマンスを考慮したためです³。もし、ディスク・ドライブ全体など、多数をリストする場合（行数が 65,536 を超える場合）や、処理速度が速いシステムで使用する場合は、“xls”ではなく MS Excel 2007 のファイル形式“xlsm”か“xlsb”で保存して、一度ファイルを閉じてから再度開いてください。

8. 動作の設定と実行

画面上部には、目的に応じて設定できるチェック・ボックスと機能を実行させるボタンが配置されています。以降では、それぞれについて説明します。

³ “xls”では、取り扱うセル範囲が狭い分、表の初期化などで、結果的に短時間で処理が終わるということです。

8.1. 設定チェック・ボックス

(1) 「フォルダのサイズも記入する」チェック・ボックス

通常はフォルダのサイズ(フォルダに含まれる全ファイルの合計)は算出しませんが、チェックすると算出し、記入します。 記入させるとその分処理に時間がかかります。

(2) 「サブフォルダも記入する」チェック・ボックス

チェックするとサブフォルダ以降もリストします。チェックがない場合は、指定されたフォルダとそこに存在するファイルだけがリストされます。

(3) 「フォルダ名と一緒に記入する」チェック・ボックス

チェックしない場合は、そのフォルダとファイルは分けて表示されますが、チェックした場合は、ファイル名の欄にフォルダ名を含めて記入されます⁴。

図 6: 「フォルダ名と一緒に記入する」設定による違い

18							
19	ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類	属性	深さ
20	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess						
21	ja-JP		2006/11/03 00:58	2006/11/03 00:58	ファイル フォルダ	F	0
22	Chess.dll	29,001,216	2006/11/02 21:35	2006/11/02 21:35	アプリケーション拡張	A	0
23	Chess.exe	2,820,608	2009/06/02 15:07	2009/04/11 15:27	アプリケーション	A	0
24	ChessMCE.lnk	1,776	2006/11/02 21:56	2006/11/02 21:56	ショートカット	A	0
25	ChessMCE.png	25,072	2006/11/02 21:35	2006/11/02 21:35	PNG ファイル	A	0
26	desktop.ini	89	2006/11/02 21:56	2006/11/02 21:56	INI ファイル	HSA	0
27	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\ja-JP						
28	Chess.exe.mui	45,056	2006/11/03 00:56	2006/11/03 00:56	MUI ファイル	A	1

18							
19	ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類		
20	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\ja-JP		2006/11/03 00:58	2006/11/03 00:58	ファイル フォル		
21	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\Chess.dll	29,001,216	2006/11/02 21:35	2006/11/02 21:35	アプリケーショ		
22	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\Chess.exe	2,820,608	2009/06/02 15:07	2009/04/11 15:27	アプリケーショ		
23	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\ChessMCE.lnk	1,776	2006/11/02 21:56	2006/11/02 21:56	ショートカット		
24	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\ChessMCE.png	25,072	2006/11/02 21:35	2006/11/02 21:35	PNG ファイル		
25	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\desktop.ini	89	2006/11/02 21:56	2006/11/02 21:56	INI ファイル		
26	C:\Program Files\Microsoft Games\Chess\ja-JP\Chess.exe.mui	45,056	2006/11/03 00:56	2006/11/03 00:56	MUI ファイル		

上側は、チェックしない場合の例です。フォルダ(行が水色となっている)と、ファイルが別々に表示されます。

下側は、チェックした場合の例です。「ファイル名」の行幅は、手で広げました。

(4) 「フォルダ名を相対表記にする」チェック・ボックス

チェックしない場合は、絶対表記ですが、チェックすると [開始] で指定した位置からの相対表記になります。

(5) 「リンク先も記入する」チェック・ボックス

リンクの指し示す先がフォルダの場合、通常は単なるリンクとして記入しますが、チェックすると、指し示す先を含めてリストします。

(注) ここでのリンクはショートカットではありません。

(6) 「経過をモニタする」チェック・ボックス

たくさんのファイル、フォルダをリストする場合、チェックすると記入か所が表示されるようにスクロールします。チェックすると処理速度が著しく低下します。なお、この設定は、実行中に表示されるダイアログでも指定できます。

⁴ ファイルやフォルダの完全パス(絶対パス)は、列 K(既定では非表示です)に記入されています。

(7) A 「重複を記入する」 チェック・ボックス

(チェック・ボックスの表示は、「内容を直接比較して確認する」の設定で変化します。「[8.3. 重複ファイル調査](#)の設定」を見てください。)

リスト対象から重複した内容のファイルが存在するかどうかを調査します。重複調査は、次のようにして行います。

- ファイルサイズが同じかどうかを調べます。
- ファイルサイズが同じ場合は、ファイルのハッシュ値を比較します。
- ハッシュ値が同じ場合は、内容を直接比較します。

「重複を記入する」を設定してリストすると、重複が検出された場合は、列 **M** に数値が記入されます。この数値 (重複種類番号) が同じ値のファイルが、内容が同じであることを示します。

重複を記入する場合は、開いたツールのフォルダに作業用のファイルを作成するため、書き込み可能なフォルダで行う必要があります。詳細は、必要により「[10.2. ハッシュ算出用作業ファイル](#)」を見てください。

(7) B 「重複可能性を記入する」 チェック・ボックス

(チェック・ボックスの表示は、「内容を直接比較して確認する」の設定で変化します。「[8.3. 重複ファイル調査](#)の設定」を見てください。)

リスト対象から重複した内容のファイルが存在するかどうかの可能性を調べます。重複の可能性は、次のようにして行います。

- ファイルサイズが同じかどうかを調べます。
- ファイルサイズが同じ場合は、ファイルのハッシュ値を比較します。

「重複可能性を記入する」を設定してリストすると、検出された場合は、列 **M** に数値が記入されます。この数値 (重複種類番号) が同じ値のファイルが、内容が同じ可能性があることを示します。

重複可能性を記入する場合は、開いたツールのフォルダに作業用のファイルを作成するため、書き込み可能なフォルダで行う必要があります。詳細は、必要により「[10.2. ハッシュ算出用作業ファイル](#)」を参照ください。

「重複可能性を記入する」の場合、ファイルの重複が確実かどうかは、ファイルの内容を直接比較することにより確認できます。必要により「[8.2. コマンド・ボタン](#)、(6)「[ハッシュ記入](#)」ボタン」を見てください。

8.2. コマンド・ボタン

(1) 「消去」ボタン

前回の実行結果 (9 行目から 11 行目のサマリと、ドライブ情報、フォルダのリストを消去します。

- なお、新たにリストしようとする前にこのボタンで消去する必要はありません。
FolderList は自動的に消去してからリストします。
- **Shift** キーを押しながらクリック (以降「**Shift** + クリック」のように表記します) すると、前回の実行結果の消去に加えてセル **B8** (リスト対象フォルダ) の内容も消去します。
- **Ctrl** + クリックすると、上部のチェックボックスの値や、設定可能ボタンの設定、インストールフォルダの記憶、などを含めて消去し、初期状態に戻します。

(2) 「開始」 ボタン

フォルダ選択ダイアログを表示します。対象を選択して [OK] をクリックするとリストを開始します。

既にセル B8 (リスト対象フォルダ) に記入された対象をリストする場合は、**Shift +** クリックします。この方法では、異なるドライブなど、離れたフォルダを同時にリストさせることができます。各フォルダを“|”で区切って指定します。(例) C:¥ABC|D:¥ABCD¥EG

リストは、システムの「隠しファイルや隠しフォルダを表示しない」や「保護されたオペレーティングファイルを表示しない」などの設定に影響しません。エラーで開けないものを除いて全ファイル、フォルダがリストされます。

(3) 「開く」 ボタン

- リスト上の対象の行のセル (列は問わない) を選択 (クリック) した後、ボタンをクリックするとそのファイルをシステムに登録されているアプリケーションで開きます。フォルダが選択されている場合はエクスプローラで開きます。
- リスト上でなくても、選択したセルに絶対パスが記入してある場合は、それを開きます。
- **Shift +** クリックした場合は、該当ファイルの完全パスをクリップボードにコピーします。(文書作成やメールなど他のアプリケーションで貼り付け、使用することができます。) コピーは、対象が存在するかどうか (リスト後削除されたかどうか) にかかわらず、行われます。コピーの場合は、対象を複数同時に選択して実行することもできます。この場合、各パスは、改行で区切られます。

(4) 「フォルダ」 ボタン

- エクスプローラでフォルダを開きます。ファイルが選択されている場合は、そのファイルが格納されているフォルダを、ファイルを選択した状態で開きます。
- フォルダを対象とした場合は、そのフォルダの親フォルダを開きます。
- **Shift +** クリックすると、対象の親フォルダ名をクリップボードにコピーします。コピーは、対象が存在するかどうか (リスト後削除されたかどうか) にかかわらず、行われます。

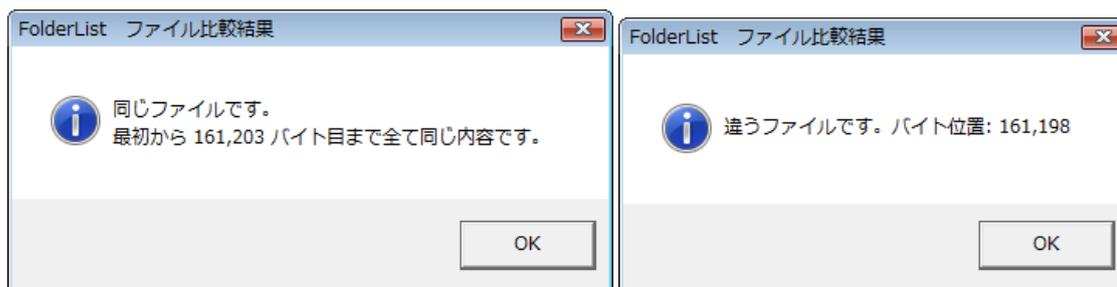
(5) 「プロパティ」 ボタン

- ファイルやフォルダのプロパティ画面を開きます。リスト上の対象の行のセル (列は問わない) を選択した後、ボタンをクリックします。
- **Ctrl +** クリックすると、オプション設定ダイアログを表示します。「8.5.その他オプションの設定」を参照ください。

(6) 「ハッシュ記入」 ボタン

- 対象行のセルを選択した後、クリックするとファイルのハッシュ値を求めリストに記入します。対象は、一度に複数指定することができます。**Shift** キーと併用すると連続したセルを、**Ctrl** キーと併用すると離れたセルを、同時に選択して指定できます。
求めるハッシュ値の種類は、重複ファイルの調査設定ダイアログで設定します。「8.3.重複ファイル調査の設定」を参照ください。
ハッシュ値算出では、開いたツールのフォルダに作業用のファイルを作成するため、書き込み可能なフォルダで行う必要があります。詳しくは、必要により「10.2.ハッシュ算出用作業ファイル」を見てください。
- 対象を2つ選択して **Shift +** クリックするとファイルの内容を直接比較し、結果を表示します。まず、ファイル・サイズが同じかを確認し、同じ場合に直接比較します。

図 7: ファイル比較結果表示例



- Ctrl + クリックするとハッシュの設定用ダイアログ（「重複ファイル調査の設定」）を表示します。「8.3. 重複ファイル調査の設定」をご覧ください。

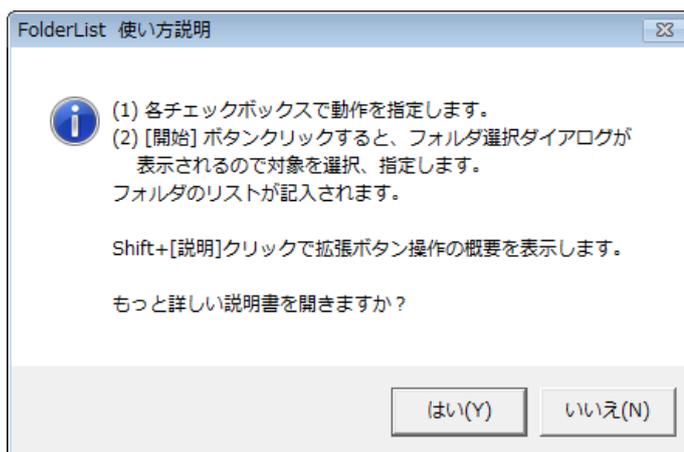
(7) 設定可能ボタン 0 から 3

- 実行するコマンドを任意に設定できるボタンです。1 つのボタンで左クリックと右クリックの 2 種類のコマンドを登録・実行できます⁵。
- Ctrl + クリックすると、ボタンの設定を行います。詳細は、以降の「8.4. 設定可能ボタンの設定」で説明します。
- 設定可能ボタン 2, 3 は既定では非表示です。表示方法は、「8.5. その他オプションの設定... (5) 「設定可能ボタンを増やす」チェック・ボックス」で説明します。

(8) 「説明」ボタン

- クリックすると簡易操作説明を表示します。

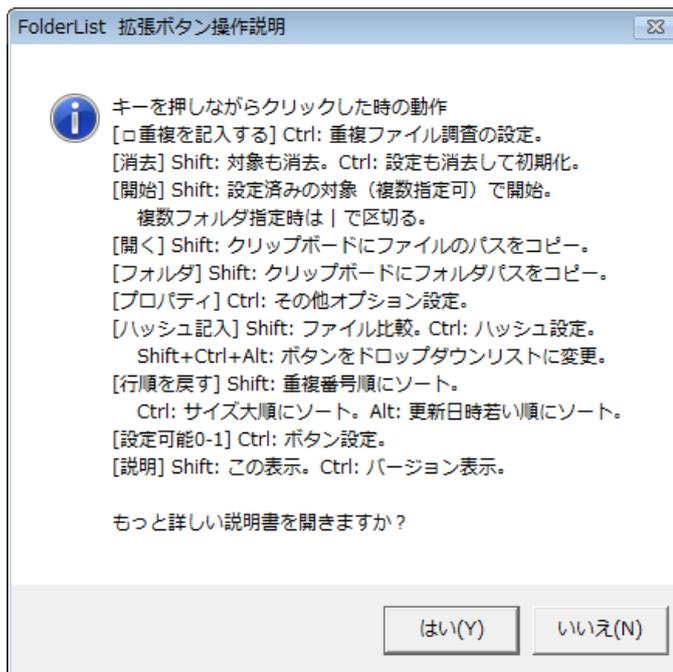
図 8: 簡易説明の表示



- 前記ダイアログで [はい(Y)] をクリックすると詳しい説明書（今見ているこのファイル FolderList.pdf）を開きます。
- Shift + クリックすると拡張ボタン操作の概要を表示します。

⁵ 右クリックでは、ボタンが押された表示にならないという制限があるため、本来は、Shift や Ctrl キーとの併用にしていたのですが、キーを押したままだと MS Excel がキーボードを離さない（起動したプロセスを前面に表示することができない）制限があるため、やむを得ず右クリックにしています。

図 9 : 拡張ボタン操作説明の表示



- Ctrl + クリックすると、使用しているツールと MS Excel のバージョン情報を表示します。また、バージョン情報は、同時にクリップボードにコピーされますので、必要によりメールやテキスト・エディタなどに「貼り付け」できます。

8.3. 重複ファイル調査の設定

「重複の可能性を調べる」を Ctrl + クリックすると、重複ファイルの調査設定ダイアログを表示します。

図 10 : 重複ファイルの調査設定ダイアログ表示例



- 「ハッシュ計算の種類」では、使用するハッシュ算出方法⁶を指定します。1つ以上を選びます。なお、当然ですが、複数選ぶと、その分算出に時間がかかります。MD5やSHA-1に比べSHA-384, SHA-512はより多くのCPUを消費しますので、用途(目的)、対象ファイルの大きさや数、CPUの能力を考慮します。複数の方法が指定された場合は、ハッシュ値はMD5, SHA-1, SHA-256, SHA-384, SHA-512, RIPEMD-160の順にスペースで区切って出力されます。既定値は、SHA-1です。
- 「内容を直接比較して確認する」にチェックすると、ファイル・サイズとハッシュ値が同じ場合には、内容を直接比較して確認します。

FolderListが採用しているサイズとハッシュ関数による方法では、実用上は直接比較を必用としないくらい合致しますが100%ではありません。重複しているか確実にするにはチェックします。

このチェック・ボックスの状態に対応してMS Excel画面右上の「重複を記入する」/「重複可能性を記入する」の表示が変わります。
- 「ファイルサイズの大きい順に番号を付ける」にチェックすると、重複ファイルに付ける番号(重複種類番号)をファイルサイズの大きい順にします。既定では、サイズの大きい順に番号を付けます。
- 「クイック・ハッシュを使用する」にチェックすると、クイック・ハッシュ・サイズより大きいファイルの場合は、最初に先頭のクイック・ハッシュ・サイズ分のハッシュを求めて比較し、同じであった場合には、全体のハッシュを求めて比較するようにします。

一般的に、同じサイズの大きなファイルが多い場合には、このオプションを指定すると処理時間を短縮できます。逆に同一サイズの(クイック・ハッシュ・サイズよりは大きい)小さいファイルが多い場合は、処理時間が長くなります。
- 「クイック・ハッシュ・サイズ(KB)」クイック・ハッシュで算出対象データのサイズを指定します。指定できる値の最小は1Kバイト、最大は131072Kバイト、既定は4Kバイトです。クイック・ハッシュを行わない場合、この設定の値は意味を持ちません。
- 「バッファ・サイズ(KB)」ファイルを読み取り、ハッシュを算出するバッファのサイズを指定します。指定できる値の最小は1Kバイト、最大は131072Kバイト、既定は128Kバイトです。この設定の値は、ファイルの比較時にも使用されます。
- オプションには、必要により、ハッシュ算出プログラムに渡すオプションを指定します。空白にしておきます。

8.4. 設定可能ボタンの設定

FolderListには、任意に実行するコマンド(プログラムの起動)を設定できるボタンが2つ準備されています。画面上部の[プロパティ]と[説明]の間の2つのボタンが設定可能ボタンです。これらのボタンを設定するには、対象ボタンをCtrlキーを押しながらクリックします。ボタン設定ダイアログが表示されます。次に示す表示は、ボタン0の設定画面です。

⁶ 採用している各ハッシュ関数は、いずれもよく知られたものであり、ここでの説明は省略します。

図 11：設定可能ボタン 0 設定画面表示

8.4.1. ボタン設定の項目

ボタン設定ダイアログの、それぞれの設定項目について、以下に説明します。

(1) 「表示」テキスト・ボックス

ボタンに表示する文字列を指定します。

(2) 「コマンド」テキスト・ボックス

実行するコマンドのパスを記入します。パスにスペースを含む場合は、いわゆる半角のダブルコーテーションで括弧します。

(3) 「引数」テキスト・ボックス

コマンドに渡す引数を記入します。コマンドと同様、スペースを含む場合は、ダブルコーテーションで括弧します。引数には、変数を使用することができます。使用できる変数は、次の通りです。

表 1：コマンドに渡す引数に使用できる変数

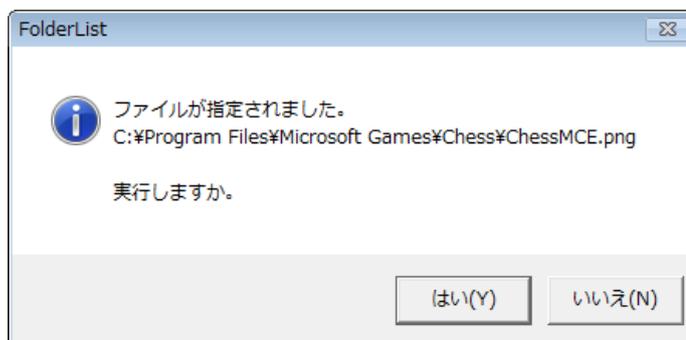
変数名	説明
FullName	ファイルまたはフォルダの完全パス。
Folder	ファイルのフォルダ名。
Name	ファイルのファイル名。拡張子は除く。
sExtension	ファイルの拡張子名。
Size	ファイルのサイズ。
SizeK	ファイルの KB 単位のサイズ。
DateCreate	ファイルまたはフォルダの作成日時。
DateModify	ファイルまたはフォルダの更新日時。
DateAccess	ファイルまたはフォルダのアクセス日時。
Type	ファイルの種類。
Property	ファイルまたはフォルダの属性。
Depth	ファイルまたはフォルダの指定フォルダからの深さ。
IsFile	選択されたのがファイルの場合は“1”他は“0”。
IsFoldr	選択されたのがフォルダの場合は“1”他は“0”。

変数名	説明
IsExist	ファイルまたはフォルダが存在する場合は“1”他は“0”。(IsFolder と IsFile の AND 結果と同じ。)
Now	現在日時。

変数は変数指定文字 “\$” で括って指定します。
 (例) FullName を指定する場合： \$FullName\$

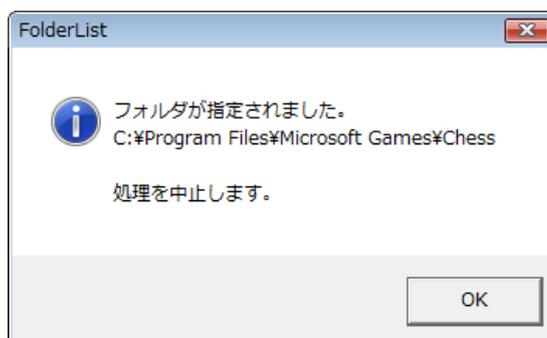
- (4) 「コマンド R」 テキスト・ボックス
 ボタンを右クリックした場合に、実行するコマンドを記入します。
- (5) 「引数 R」 テキスト・ボックス
 ボタンを右クリックした場合に、コマンドに渡す引数を記入します。
- (6) 「対象がファイルの場合」 のオプション・ボタン
- (7) 「対象がフォルダの場合」 のオプション・ボタン
- (8) 「対象が見つからない場合」 のオプション・ボタン
 - 「実行する」 を選ぶと、該当する場合にコマンドを実行します。
 - 「確認する」 を選ぶと、実行前に確認用のダイアログを表示します。

図 12: 「確認する」 で表示されるダイアログの例



- 「表示する」 を選ぶと、該当する場合にエラー・メッセージを表示します。

図 13: 「表示する」 で表示されるダイアログの例



- 「何もしない」 を選ぶと、該当する場合に処理は行われません。 ボタンのクリックを無視します。

- (9) 「ウィンドウ・スタイル」 リスト・ボックス
 実行するコマンドのウィンドウ・スタイルを指定します。 Minimize とはアイコン化、Focus とはそのウィンドウに対してキーボードが入力できるようになる (同時に最前面に表示する)

ことを意味しています。Hideを選択すると、ウインドウは非表示となり、アイコンも表示されません。何れの設定も動作は実行するコマンドに委ねられるので、期待通りの結果が得られるかどうかはコマンドに依ります。

(10) 「終了を待つ」チェック・ボックス

チェックするとコマンド実行中はダイアログを表示して、コマンドの終了を待ちます。

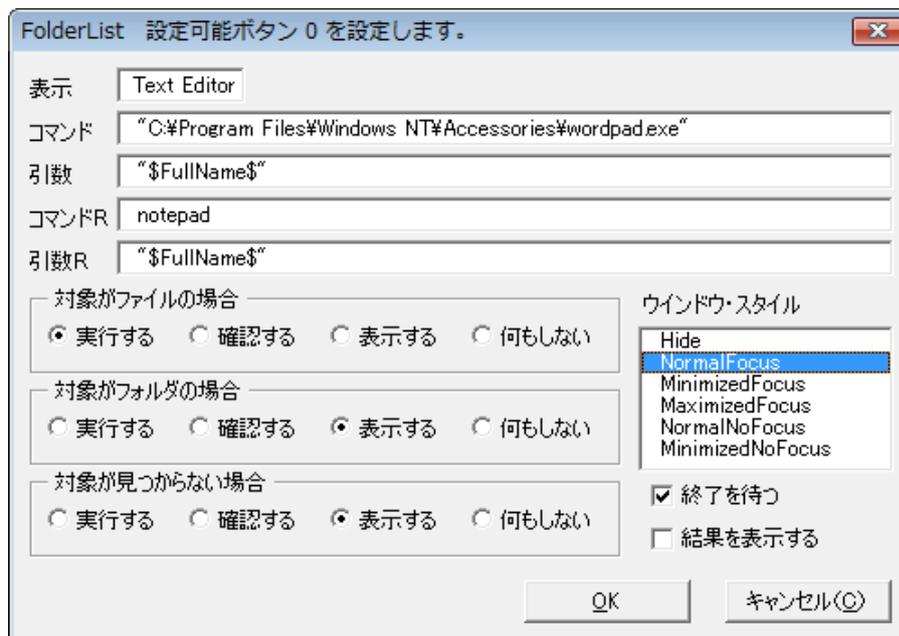
(11) 「結果を表示する」チェック・ボックス

チェックすると、コマンド終了時に終了コードと処理時間を表示します。「終了を待つ」が設定されている場合に指定可能です。

8.4.2. ボタン設定例

以下に、ボタンの設定例を示します。(以下は、何れも動作を説明するための単なる例です。)

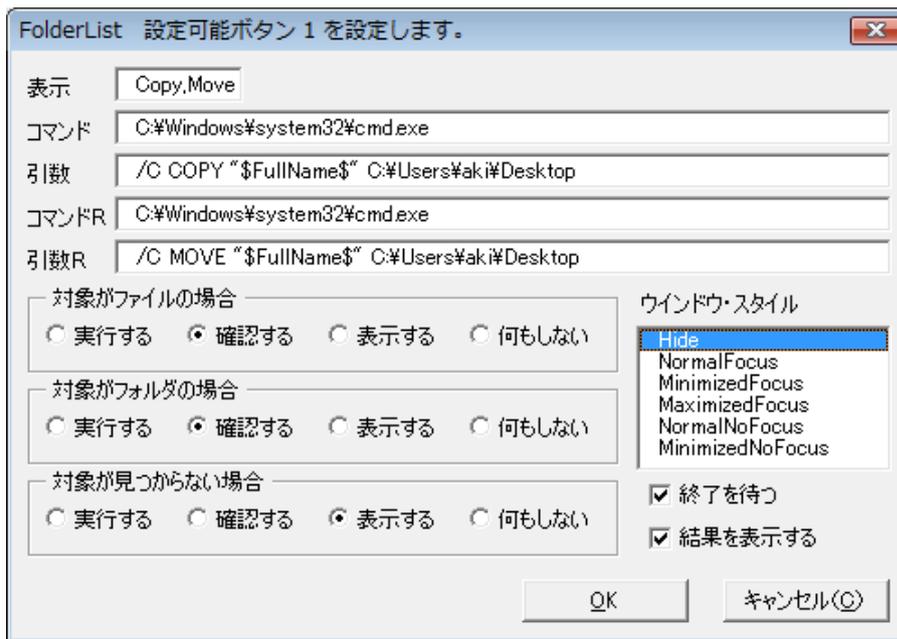
図 14：ボタン設定例 1



上記設定例の意味は、下記の通りです。

- 設定可能ボタンの表示は [Text Editor]。
- 対象のセルを選択して、ボタンをクリックするとワードパッドを実行します。
- ワードパッド起動時の引数として、セルで指定されたファイルをフルパスで渡します。ダブルコーテーションで括っているのは、フォルダ名やファイル名にスペースを含んでいる場合があるためです。
- ボタンを右クリックするとメモ帳を実行します。
- セルの選択で指定されたファイルが削除されたりして、コマンド実行時に見つからない場合や、フォルダが指定された場合は、メッセージを表示します。
- ワードパッドやメモ帳は通常のウインドウ表示で、起動したらキーボードの入力を受け付けるようにします。

図 15 : ボタン設定例 2

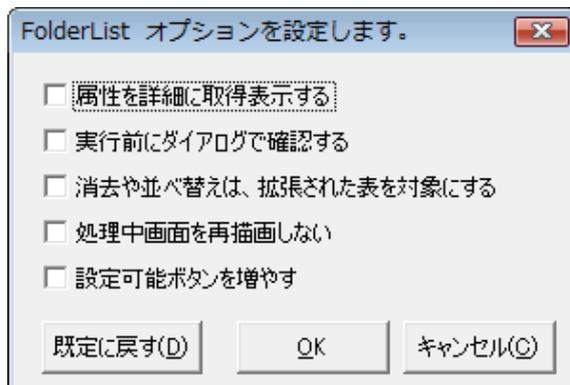


- デスクトップにコピー（クリック）と移動（右クリック）する設定例です。
- 「対象がファイルの場合」でも確認してから実行するようにしています。
- 「ウインドウ・スタイル」の vbHide で、コマンド・ウインドウを表示しないようにしています。
- コピーや移動の終了を待ち、終了したら終了コードと処理時間を表示します。

8.5. その他オプションの設定

[プロパティ] ボタンを Ctrl + クリックするとオプション設定ダイアログが表示されます。

図 16 : オプション設定ダイアログ表示



(1) 「属性を詳細に取得する」チェック・ボックス

チェックすると、ファイル属性 N（検索を早くするためのインデックスを付けない）をはじめ、いくつかの属性についても取得し表示します。既定では、処理速度を優先したためと、通常この属性については使用する頻度が少ないと思われるため、非設定です。なお、属性詳細取得機能が有効の場合、処理速度は、システムにも依存しますが、一例では 1 割位低下しました。

(2) 「実行前に確認する」チェック・ボックス

[消去] や [開始]、設定可能ボタンの操作、[行順を戻す] で、実行前にダイアログを表示し、確認してから実行するようにします（但し、基の機能でダイアログが表示される場合は、重複して表示することはありません）。

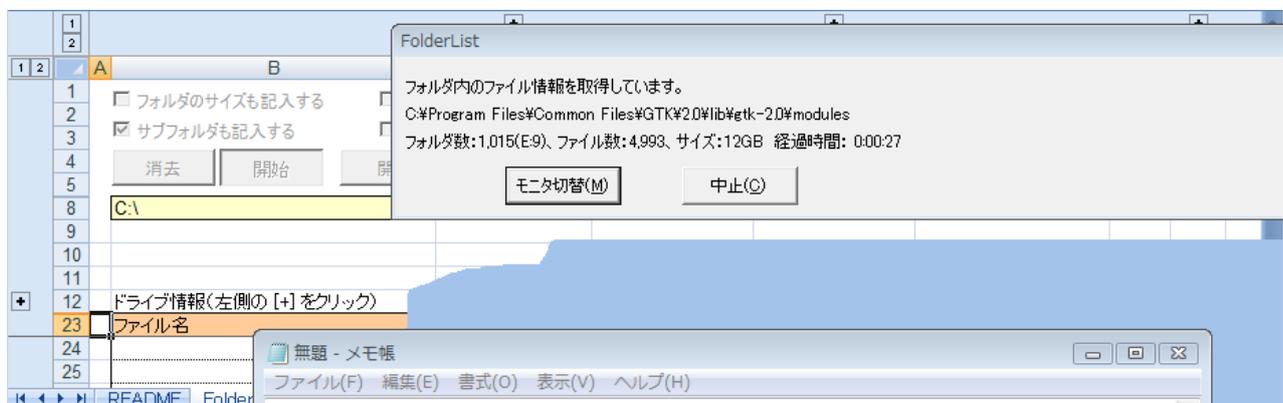
(3) 「消去や並べ替えは拡張された表を対象にする」チェック・ボックス

[行順を戻す] ボタンの操作（Shift, Ctrl, Alt との併用を含む）で、使用者が独自に追加した列（列 O から）⁷ も並べ替えの対象とするようにします。また、[消去] についても同様に対象として消去します。

(4) 「処理中画面を再描画しない」チェック・ボックス

処理中は MS Excel 画面の再描画をしないようにして、処理速度を速めます。この設定をした場合は、処理中に他のアプリケーションなどのウィンドウを重ねて動かした場合などでも表示が再描画されず、MS Excel の画面が壊れたように見えますが、異常ではありません。リスト終了時、あるいは、[モニタ切替(M)] ボタンによりモニタを有効にすると回復します。また、リスト状況表示ダイアログの大きさは、表示内容につれて大きくはなりますが、小さくはなりません。

図 17 : MS Excel 画面再描画停止時の表示例



(5) 「設定可能ボタンを増やす」チェック・ボックス

設定可能ボタンを 2 つ追加で使えるようにします。

8.6. リスト状況表示ダイアログ

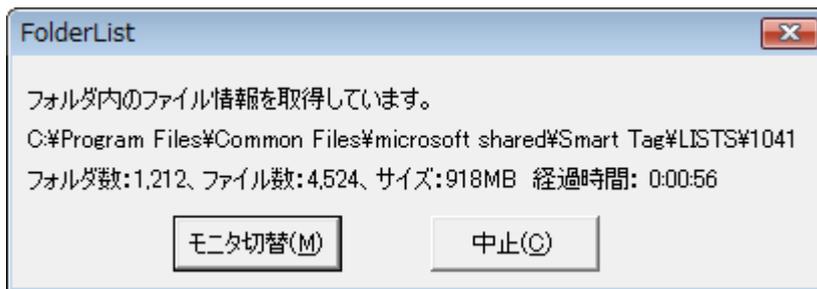
リスト実行中は、リスト状況を示すダイアログが表示されます。（リストするファイルやフォルダが少ない場合は、一瞬しか表示されません。）

8.6.1. リスト状況表示ダイアログの表示

下記にリスト状況表示ダイアログの表示例を示します。

⁷ 追加する場合は、行を空けないで列 O からとします。列を空けると、指定されていても対象とはしません。

図 18：リスト状況表示ダイアログの表示例



- 1 行目は、現在行っている処理を示します。
- 2 行目は、現在行っているリスト対象フォルダを示します。
- 3 行目は、現在までにリストしたフォルダとファイルの数とファイル・サイズの合計と、処理開始からの経過時間を示します。

8.6.2. [モニタ切替(M)]、[中止(C)] ボタン

リスト状況表示ダイアログ下部には、[モニタ切替(M)] と [中止(C)] のボタンが配置されています。

(1) [モニタ切替(M)] ボタン

このボタンをクリックすると、モニタの有効・無効が切り替わります。有効にすると表の現在リストしているシートの行が確認できるようにスクロールします。モニタを有効にすると処理速度は著しく低下します（使用するシステムの能力にも依りますが、一例では、約 5 分の 1 位に低下します）。

(2) [中止(C)] ボタン

クリックすると、以降のリストを中止して終了します。

これらのボタンは、状況によっては、クリックしても反応しないことがあります。この場合は、キーボードでボタンを操作してください。モニタ切替は Alt + M、キャンセルは Alt + C です。

9. リスト結果表示

リスト結果の表示内容について説明します。結果の表示例を以下に示します。

図 19：結果の表示例

A	B	C	E	F	H	I	J	M
1	<input type="checkbox"/> フォルダのサイズも記入する	<input type="checkbox"/> フォルダ名と一緒に記入する	<input type="checkbox"/> リンク先も記入する	<input checked="" type="checkbox"/> 重複を記入する				
2	<input checked="" type="checkbox"/> サブフォルダも記入する	<input type="checkbox"/> フォルダ名を相対表記にする	<input type="checkbox"/> 経過をモニタする					
4	消去	開始	開く	フォルダ	プロパティ	ハッシュ記入	行順を戻す	0 1 説明
8	C:\Windows\Cursors							
9	フォルダ数: 0 (E:0, S:0, H:0)、ファイル数: 223 (S:0, H:0)、サイズ: 913,982B、893KB							
10	重複種類数: 4、重複ファイル数: 4、重複サイズ: 79,738B、78KB、ハッシュ: 198 (E:0, F:2)							
11	リスト日時: 2009/11/18 15:22、重複調査時間: 0:00:04 (C:1)、全処理時間: 0:00:06							
12	ドライブ情報(左側の [+]) をクリック							
23	ファイル名	サイズ	作成日時	更新日時	種類	属性	深さ	重複
206	size2_r.cur	326	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0
207	size2_rl.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		2
208	size2_rm.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0
209	size3_i.cur	326	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0
210	size3_il.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0
211	size3_im.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0
212	size3_l.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		3
213	size3_m.cur	766	2006/11/02 16:25	2006/09/19 06:36	ポイント	A		0

9.1. リスト対象とサマリ

(1) リストの対象フォルダ (セル B5、セル名 Folder)

リスト対象を入力します。あるいは、ダイアログでフォルダを指定した場合は、そのフォルダ名が記入されます。

(2) サマリ (セル B9)

リストしたフォルダの数とファイルの数、ファイルサイズの合計を表示します。フォルダとファイルの数のカッコ内の値は、それぞれ次の通りです。

表 2：サマリ内訳文字とその意味

文字	内容
E	アクセス許可がないなど、エラーによりリストできなかったフォルダの数。
S	システム(System)属性が設定されている数。
H	表示を隠す(Hidden)属性が設定されている数。

(3) 重複ファイルの可能性調査結果 (セル B10)

「重複を記入する」/「重複可能性を記入する」を設定してリストさせた場合に表示されます。

表 3：重複ファイルの可能性調査結果サマリ

項目名	説明
重複種類数	重複の可能性があるファイルの組が何種類あったかを示します。
重複ファイル数	重複の可能性があるファイルの数から重複種類を引いた値です。重複がないようにする場合に、削除するファイルの数と考えると分かり易いです。
重複サイズ	重複しているファイルのサイズ合計です。重複がないようにする場合に、削除できるファイルのサイズの合計です。
ハッシュ	ハッシュ値を求めようとしたファイルの数です。カッコ内の E: は、エラー (セキュリティなど) によりハッシュを求められなかった数です。 (ハッシュ値は、同一ファイルサイズのファイルに対して、求めるため、同一ファイルサイズであったファイルの数です。) F: は、クイック・ハッシュを行った場合に表示されます。クイックでは同一と判定されたため、完全なハッシュを求めた数です。

(4) リスト日時と処理時間 (セル B11)

表 4：重複ファイルの可能性調査結果サマリ

項目名	説明
リスト日時	リスト終了時の日時です。処理を途中で中止した場合は、“処理を中止しました。中止日時”と表示されます。
重複調査時間	ファイルの重複調査を行った場合に表示されます。ファイルの重複調査にかかった時間です。C: は、サイズとハッシュ値が同じであったため内容を直接比較にかかった時間 (秒) です。重複調査時間の殆どは、ファイルからのデータ読み込み時間が占めます。
(全) 処理時間	全体の処理時間です。ファイルの重複調査を行った場合は、その時間を含みます。

9.2. ドライブ情報

通常、ドライブ情報は、非表示になっています。 必要により、下図を参考に表示を切り替えて表示させます。

図 20：ドライブ情報の表示切替

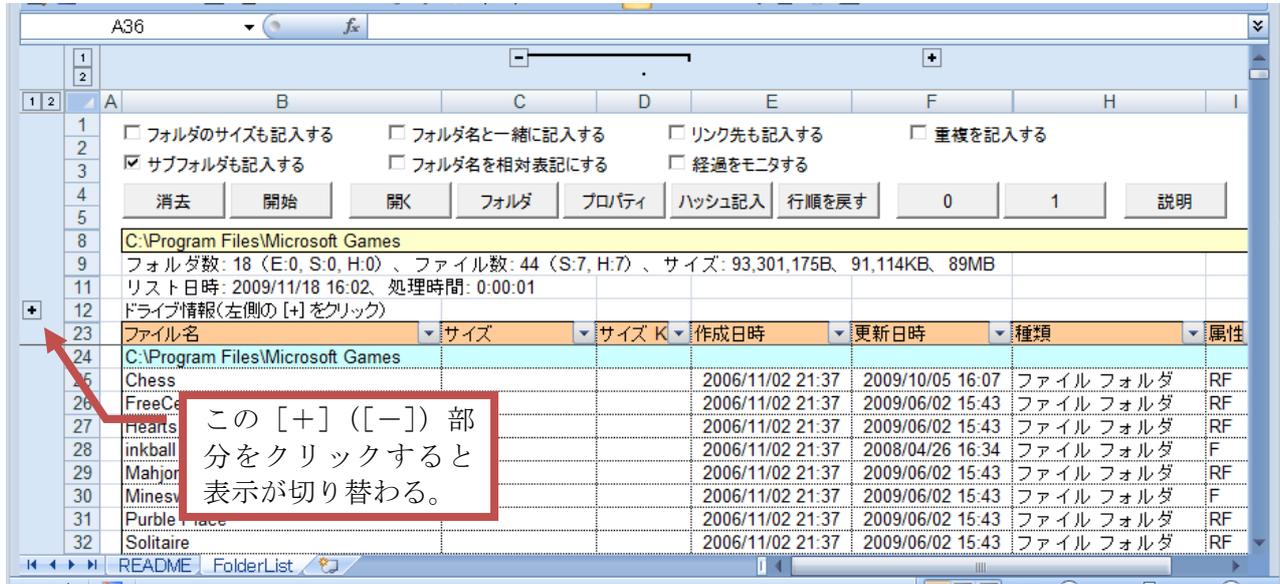
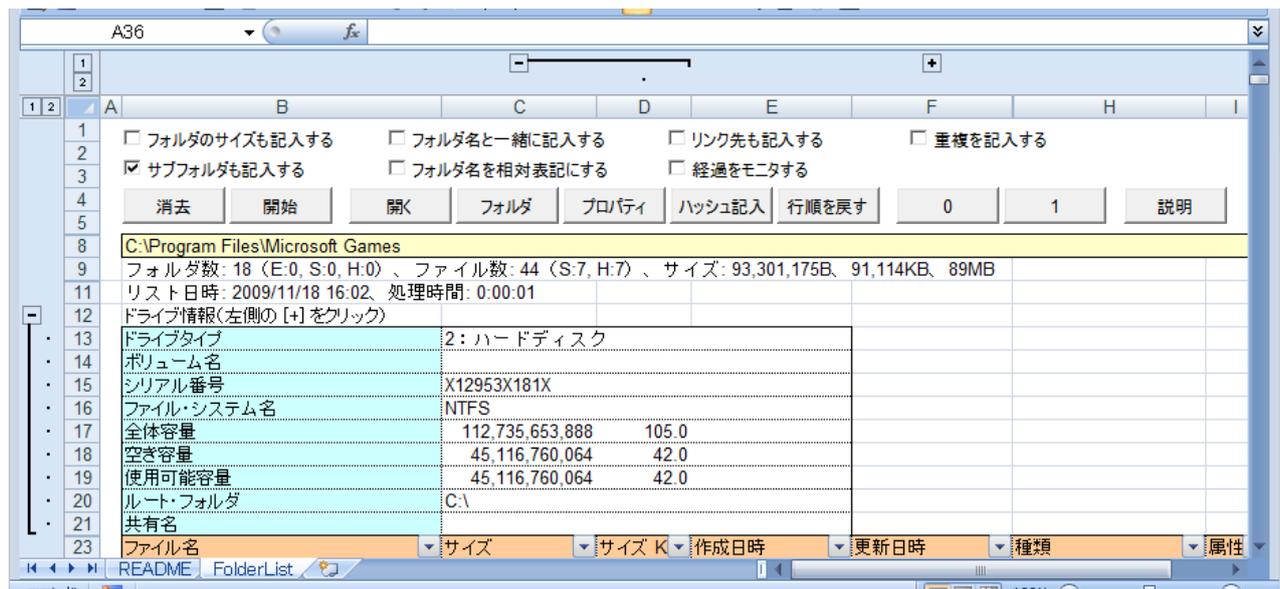


図 21：ドライブ情報の表示例



なお、リスト対象に複数のフォルダを指定し、ドライブが複数になる場合は、最初に指定したフォルダのドライブ情報が表示されます。

9.3. ファイル、フォルダのリスト

シートの 24 行目以降には、ファイルやフォルダがリストされます。

「フォルダ名と一緒に記入する」が設定されていない場合は、対象のフォルダを水色の行で示します。

表 5: ファイル、フォルダのリスト項目

列	項目	説明
B	ファイル名	ファイル名、フォルダ名が記入されます。 「フォルダ名と一緒に記入する」が設定されている場合は、フォルダを含めて記入されます。
C	サイズ	ファイルのサイズが記入されます。 「フォルダのサイズも記入する」が有効の場合は、フォルダのサイズ（そのフォルダ以降の全てのサブフォルダに格納されているファイル・サイズの合計）も記入されます。
D	サイズ KB	KB 単位のサイズが記入されます。既定では非表示です。必要により再表示ください。
E	作成日時	作成された日時が記入されます。
F	更新日時	最後に内容を更新した（書き込んだ）日時が記入されます。
G	アクセス日時	最後にアクセスした日時が記入されます ⁸ 。既定では非表示です。
H	種類	ファイルの種類です。
I	属性	設定されている属性が、属性ごとに各 1 文字で記入されます。属性は次の通りです。 R: 読み取り専用ファイル。 H: 隠しファイル。 S: システム ファイル。 V: ディスク ドライブ ボリューム ラベル。 F: フォルダまたはディレクトリ。 A: ファイルが前回のバックアップ以降に変更されているかどうか。 L: リンクまたはショートカット。 C: 圧縮ファイル。フォルダの場合は、そのフォルダのファイルが既定で圧縮状態となることを意味します。
J	深さ	指定されたフォルダからの深さです。
K	完全パス	対象の完全なパス（絶対パス）が記入されます。既定では非表示です。
L	ハッシュ	ハッシュ値が記入されます。既定では非表示で、ハッシュ値を記入させると表示します。複数の種類のハッシュを算出させた場合は、スペースで区切って表示されます。ハッシュを求められなかった場合には、そのエラー内容が記入されます。

⁸ アクセス日時は、システムの設定によっては、アプリケーションで明示的に指定する場合を除いて、更新されない場合があります。例えば、Windows Vista では既定では更新しない設定です。

⁹ 説明内容は、使用している Microsoft 社のライブラリの説明を基にしています。

列	項目	説明
M	重複	<p>この行は、「重複を記入する」/「重複可能性を記入する」を設定してリストした場合に有効です。既定では非表示ですが、重複の可能性があるファイルを見つけた場合に表示されます。</p> <p>「重複を記入する」の場合： 重複したファイルに重複の種類番号が記入されます。 重複種類番号が同じ値のファイルが、内容が同じであることを示します。</p> <p>「重複可能性を記入する」の場合： 重複の可能性があるファイルに重複の種類番号が記入されます。 重複種類番号が同じ値のファイルが、重複の可能性がある（サイズもハッシュ値も同じ）ファイルです。 重複種類番号は、ファイルサイズの大きい順に付けることができます。 必要により「8.3. 重複ファイル調査の設定」を見てください。</p>
N	行番号	<p>リストを終了した直後の行番号が記入されます。 [行順を戻す] をクリックした時に使用されます。 既定では非表示です。</p>

10. その他

10.1. 不具合および制限

既知の不具合や制限について示します。（一部、これまでの記述と重複します。）

10.1.1. PDF ファイル「しおり」の文字化け

この説明書やセットアップ説明書には「しおり（見出しマップ、ブックマーク）」が付いていますが、一部文字化けしています。 必要により、正しくは「目次」にて確認ください。

10.1.2. 使用上の制限

ツールが内部的に使用しているセルや名前などがあります。これらを消したり、上書きするなど変更すると動作しなくなります。 具体的には下記の通りですが、セル A1 からセル N23 の範囲には、本書で説明があるセルを除いて、直接書き込まないようにすることをお勧めします。 必要によりシートの内容をコピーして使用ください。 また、前記範囲内への列の挿入や削除などについても同様です。 ツールを使う上での利便性を優先して、あえてセルの保護は設定していません。

(1) セル

- セル B7 から M7： 各種の設定や、リストした時の記録が記入してあります。
- セル B22 から N22： リスト行に適用する書式が保存されています。

(2) 名前：定義を変えたり位置を変更すると期待の動作が望めなくなります。

- Folder
- Settings
- TableOrigin

10.2. ハッシュ算出用作業ファイル

ハッシュ算出をする場合、開いているツールのフォルダに、作業用のファイルを作成します。 作成されるファイルはツールのファイル名が **FolderList.xls** の場合は、**FolderList.flhw** と **FolderList.flhr** の 2 つ（ベース名.flhw と、ベース名.flhr）です。 通常は、処理終了と共に削除されるので目にする機会は少ないですが、処理を途中で中止した場合は、残ることがあります。 この場合、手動で削除しても構いませんし、次のハッシュ算出終了時には削除されるのでそのままでも構いません。

また、ハッシュ値算出プロセス **FileHash.exe** の制御のために名前が“FileHash Control”の **Mutex** を使用しています。

10.3. 行の並べ替え、比較

行の並べ替えや比較は、既定では、**Shift** や **Ctrl** 等を押しながらボタンをクリックすることで動作を指定しますが、ドロップダウン・リストによる方法に変更することができます。 **Shift**, **Ctrl**, **Alt** を同時に押しながら [ハッシュ記入] または [行順を戻す] ボタンをクリックします (元に戻す場合も同様です)。

行の並べ替えでは、ドロップダウン・リストの項目をクリックする時に、**Shift** を押しながら行くと並び順の降順、昇順が逆になります。例えば [更新日時] をそのままクリックした場合は、更新日時の若い順に並べ替えますが、**Shift** + [更新日時] クリックでは、更新日時の古い順に並べ替えます。

10.4. 少しでも処理パフォーマンスを上げたい方のために

考えられる方法をいくつか紹介します。なお、処理時間を比較する場合は、同じ対象を連続してリストする場合の処理時間は、システムのキャッシュ効果により、2回目以降は短時間で終了する (場合によっては大幅に短縮される) ことに注意ください。

- (1) 大幅な改善を希望する場合は、ディスク・ドライブを **SSD** など高速なタイプにするのが効果的です。処理時間の殆どはディスクの読み出しに費やされているためです。次いで **CPU** を高速なものにすることです。
- (2) 不要なアプリケーションを閉じてから **MS Excel** を立ち上げます。
- (3) **FolderList.xlsm** ではなく **FolderList.xls** で処理させます。取り扱うセル範囲が狭いので、初期化などが短時間で済みます。
- (4) 重複ファイルの可能性を調べる必要がない場合は、設定を解除します。必要な場合には、ハッシュ算出の種類を **MD5** か **SHA-1** のどちらか 1 つにします。
逆に、複数のハッシュが必要な場合は、一度にまとめて算出させると一度のファイル読み込みで算出できるので個別に行わせるより早くなります。
- (5) ファイル重複調査でクイック・ハッシュを使用するかどうかを検討します。また、使用する場合は、クイック・ハッシュ・サイズを調整します。詳細は「[8.3. 重複ファイル調査の設定](#)」を見てください。
- (6) 処理中に画面の再描画をしない設定にします。
- (7) ファイルの読み込みバッファのサイズを調整します。詳細は「[8.3. 重複ファイル調査の設定](#)」を見てください。

10.5. 問合せ先

下記メール・アドレス (コピー&ペーストしてはいけません) 宛にお願いします。
sa103sa103@gmail.com

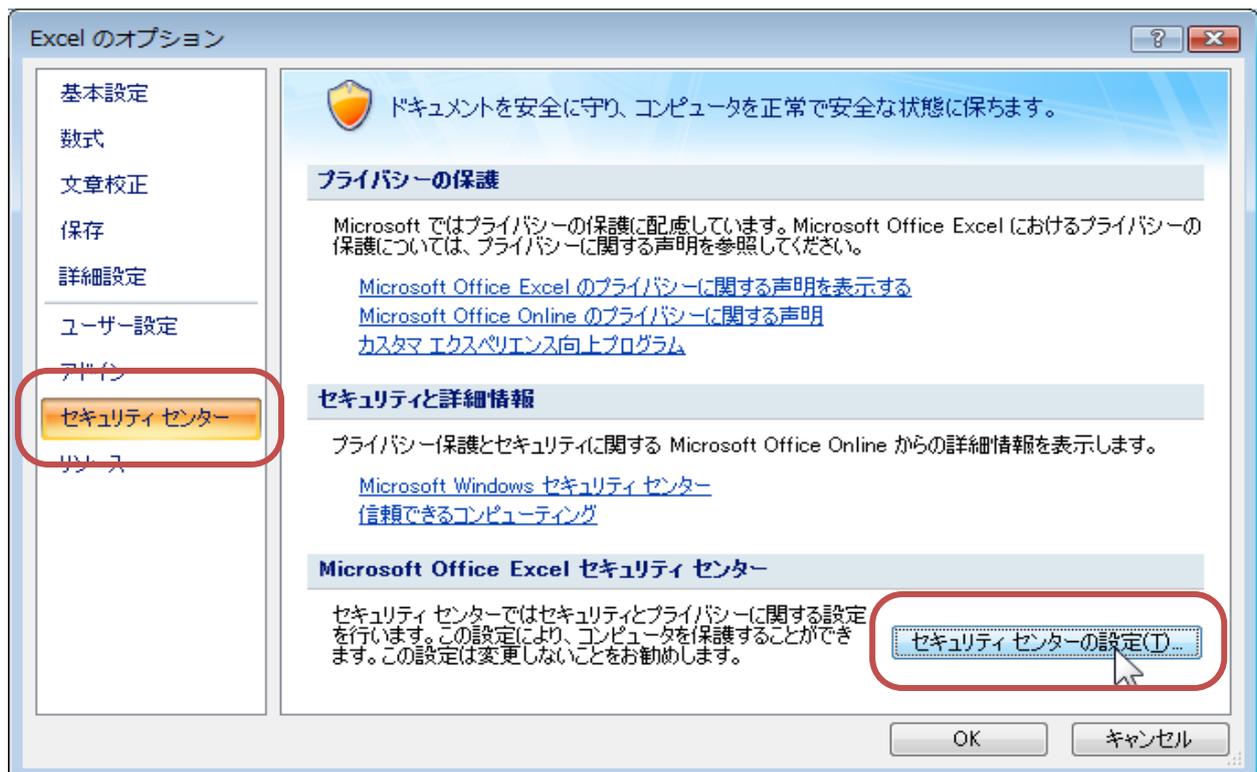
以上

11. 参考資料：VBA マクロを有効にする

最初の起動でダイアログが表示されない場合や、[開始] ボタンをクリックしても反応しない場合は、VBA マクロの動作が有効になっていない可能性があります。VBA マクロを有効にする手順の例（MS Excel 2007 の場合）を以下に示します。（この資料は、便宜上示すものであり、詳細は MS Excel の説明書を見てください。）

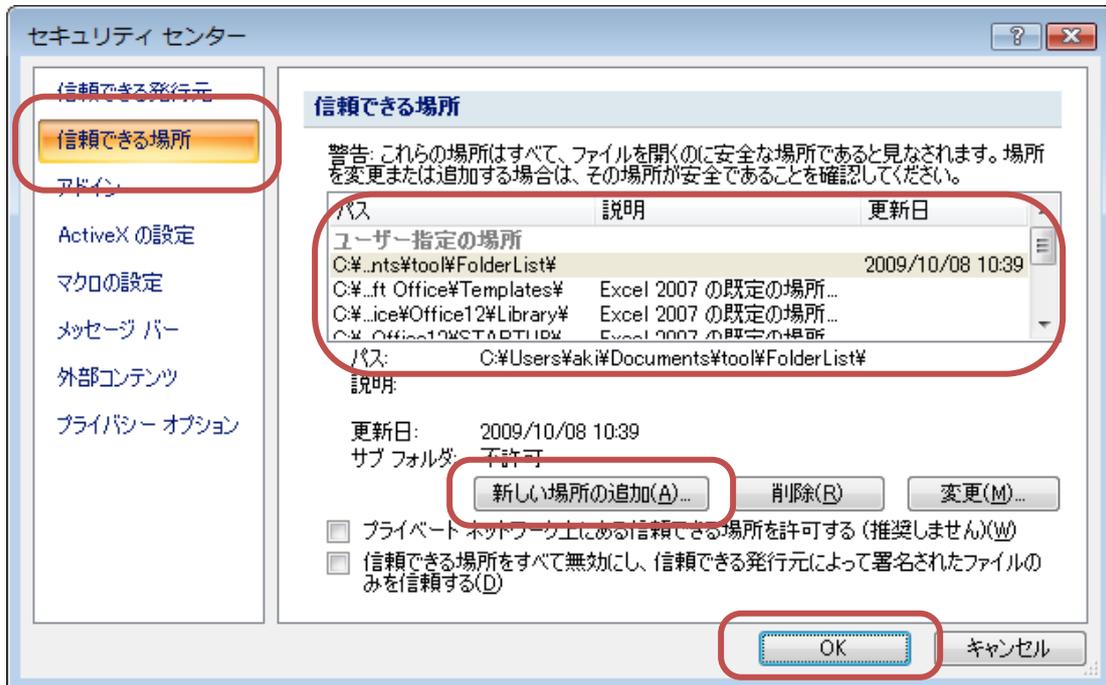
- (1) MS Excel 左上の Office ボタンをクリックして表示されるメニュー最下部の [Excel のオプション] をクリックします。
- (2) 表示された「Excel のオプション」の [セキュリティセンター] をクリックし、[セキュリティセンターの設定(T)...] をクリックします。

図 22：Excel のオプション、セキュリティ センター



- (3) 「セキュリティ センター」の「信頼できる場所」をクリックし、信頼できる場所に FolderList.xls を格納したフォルダ（あるいは、上位のフォルダとサブフォルダ）が登録されていることを確認します。もし、登録されていない場合は[新しい場所の追加(A)...]をクリックして追加し、[OK] をクリックします。

図 23 : セキュリティ センター、信頼できる場所



12. 索引

[中止(C)] ボタン.....	19	xlsb.....	7
[モニタ切替(M)] ボタン.....	19	xlsm.....	7, 24
「ウィンドウ・スタイル」.....	15	アクセス日時.....	22
「開始」 ボタン.....	10	アンインストール.....	5
「確認する」.....	15	インストール.....	4
「クイック・ハッシュ・サイズ(KB)」.....	13	オプション設定ダイアログ.....	17
「クイック・ハッシュを使用する」.....	13	オプションの設定.....	17
「経過をモニタする」.....	8	親フォルダ名をクリップボードにコピー.....	10
「結果を表示する」.....	16	解凍.....	4
「コマンド」.....	14	拡張ボタン操作説明.....	12
「コマンド R」.....	15	拡張ボタン操作の概要.....	11
「サブフォルダも記入する」.....	8	完全パス.....	22
「実行する」.....	15	完全パスをクリップボードにコピー.....	10
「実行前に確認する」.....	18	キャンセル.....	19
「終了を待つ」.....	16	行の並べ替え.....	24
「消去」 ボタン.....	9	行番号.....	23
「消去や並べ替えは拡張された表を対象にする」.....	18	クリックしても反応しない.....	19
「処理中画面を再描画しない」.....	18	詳しい説明書.....	11
「設定可能ボタンを増やす」.....	11, 18	更新日時.....	22
「説明」 ボタン.....	11	コマンドに渡す引数.....	14
「属性を詳細に取得する」.....	17	サイズ.....	22
「対象がファイルの場合」.....	15	サイズ KB.....	22
「対象がフォルダの場合」.....	15	再描画をしない.....	24
「対象が見つからない場合」.....	15	作成日時.....	22
「重複可能性を記入する」.....	9, 13	サマリ.....	20
「重複を記入する」.....	9, 13	サマリ内訳文字.....	20
「内容を直接比較して確認する」.....	13	種類.....	22
「バッファ・サイズ(KB)」.....	13	使用上の制限.....	23
「引数」.....	14	処理時間.....	20
「引数 R」.....	15	信頼できる場所.....	26
「表示」.....	14	制限.....	23
「開く」 ボタン.....	10	セキュリティセンター.....	25
「ファイルサイズの大きい順に番号を付ける」.....	13	設定.....	8
「フォルダ」 ボタン.....	10	設定可能ボタン.....	11
「フォルダのサイズも記入する」.....	8	設定可能ボタンの設定.....	13
「フォルダ名と一緒に記入する」.....	8	設定チェック・ボックス.....	8
「フォルダ名を相対表記にする」.....	8	属性.....	22
「プロパティ」 ボタン.....	10	属性詳細取得.....	17
「リンク先も記入する」.....	8	ダウンロード.....	4
Excel 2003.....	4	重複.....	23
Excel 2007.....	4	重複サイズ.....	20
flhr.....	23	重複種類数.....	20
flhw.....	23	重複ファイル数.....	20
FolderList.flhr.....	23	重複ファイル調査.....	9, 10, 11, 12, 23, 24
FolderList.flhw.....	23	特徴.....	4
MD5.....	24	ドライブ情報.....	21
MS Excel のファイル形式.....	7	バージョン.....	12
SHA-1.....	24	バージョン情報.....	12
VBA マクロ.....	5, 25	ハッシュ.....	20, 22
xls.....	7, 24	ハッシュ記入」 ボタン.....	10
		ハッシュ計算の種類.....	13
		ハッシュ算出用作業ファイル.....	23

パフォーマンス.....	24	ボタンの設定	11, 13
比較.....	24	ボタンをクリックしても反応しない	25
ファイルの内容を直接比較.....	10	マクロを有効にする	25
ファイルのハッシュ値.....	10	免責	7
ファイル名.....	22	モニタ切替.....	19
深さ.....	22	リスト結果の表示内容.....	19
不具合	23	リスト項目	22
ボタン設定.....	14	リスト状況表示ダイアログ	18
ボタン設定例	16	リスト日時.....	20

13. リリース・ノート

参考までに FolderList の更新履歴を示します。新しいものが上になっています。

表 6: リリース・ノート

FolderList リリース・ノート	
2011/10/26	<p>バージョン 1.3</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象フォルダを複数指定できるようになりました。これにより、重複ファイルは、異なるドライブなど離れたフォルダにあるファイルも検出可能になりました。 その他、軽微な誤りの修正や改善。
2009/11/21	<p>バージョン 1.2</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイルの重複調査で、重複しているかどうか確実な結果を表示できるようになりました。内容を直接比較して、重複しているかを確認めます。 クイック・ハッシュ機能が追加されました。多量の大型ファイルを対象にファイルの重複調査を行なう場合、より高速で調査できるようになりました。 その他オプション設定用のフォームが追加され、設定や確認がし易くなりました。 行の並べ替えの際に、使用者が追加した列を含めて行なえるオプションが追加されました。 その他、軽微な誤りの修正や改善。
2009/11/03	<p>バージョン 1.1</p> <ul style="list-style-type: none"> [ハッシュ記入]、[行順を戻す] ボタンが独立し、分かり易く、使い易くなりました。 複数のファイルのハッシュ値を一度の操作で記入できるようになりました。 ハッシュ算出中や、ファイル比較中のキャンセルに対する制限は、なくなりました。 [開く] ボタンで MS Excel ファイルを開けない不具合を修正しました。 その他、軽微な誤りの修正や改善。
2009/10/23	<p>バージョン 1.0</p> <ul style="list-style-type: none"> 初版

表 7：改訂履歴： FolderList 説明書

改訂番号	改訂年月日	改訂理由・主な内容
0.1	2009/10/05	草案。
1.0	2009/10/23	初版。
1.1	2009/11/03	FolderList 1.1, FileHash 1.1 対応。ハッシュ作業用ファイルと Mutex の説明追記。その他軽微な誤りを修正。
1.2	2009/11/21	FolderList 1.2, FileHash 2.1 対応。全体構成を見直し変更。
1.3	2011/10/26	FolderList 1.3 対応。リリース・ノートを設置。罫線の太さを調整。